**ASEAN 大使通信**
**第 25 回　継続と変革**

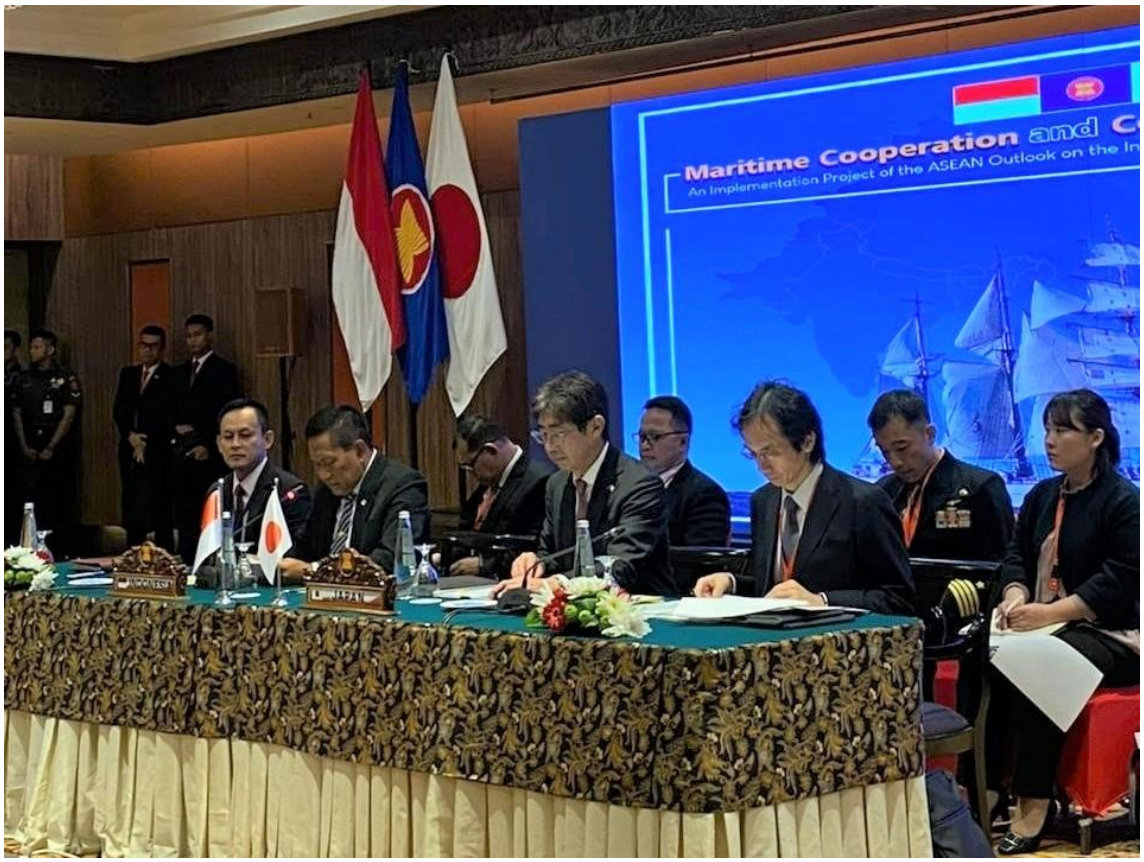
2024 年（令和６年）12 月 24 日

日 ASEAN 経済共創フォーラム 2024
（2024 年 12 月 20 日、於東京、ASEAN 事務局提供）

年の瀬が近づく中、皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年 12 月に東京で日 ASEAN 特別首脳会議が盛大に開催されてから、早くも一年が経ちました！

今月も、日 ASEAN 協力を推進する多くの行事が開催されました。上旬は海洋協力及び連結性会議、日 ASEAN 知的財産権セミナー、ファストトラック・ピッチ、中旬は東南アジア・Quad（日米豪印）対話が開催され、年内最後の行事としてカオ・キムホン ASEAN 事務総長が訪日しました。

この一年間の進展を振り返って、日本と ASEAN にとって重要なことは、相互信頼関係を強化する取組を「継続」するとともに、双方が学び合い共創する中で自らを「変革」していくことと感じました。皆様に一連の行事をご紹介しながら、日 ASEAN 協力の方向性を一緒に考えていきたいと思います。




日インドネシア共催・海洋協力及び連結性会議
（2024 年 12 月３日、於ジャカルタ）

**●海洋協力及び連結性会議**

12 月３日～４日、日本の防衛省とインドネシアの国防省の共催で、「海洋協力及び連結性会議」がジャカルタで開催されました。この会議は、昨年 11 月の ASEAN 国防相会議（ADMM）で、防衛の観点からインド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）を実施していくことが決定されたことを受けて、最初の具体的プロジェクトとして開催されたものです。

今回の会議には、拡大 ASEAN 国防相会議（ADMM プラス）参加国に加え、東ティモール、太平洋島嶼国、インド太平洋地域に関するビジョン等を有する欧米諸国や機関が参加しました。この会議では、海洋安全保障における共通の課題や、共同訓練や能力構築をはじめとする地域間の連結性向上に資する取組に関して活発な意見交換が行われました。

日本の防衛省がインドネシアはじめ ASEAN の国防省とともに、ASEAN 主導の枠組みと AOIP を支持し、諸外国との連携を一層強化しながら、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて積極的に貢献していることを嬉しく思います。

日 ASEAN 知的財産権セミナー
（2024 年 12 月４日、於ジャカルタ、ASEAN 事務局提供）

**●日 ASEAN 知的財産権セミナー**

12 月４日～５日、日 ASEAN 知的財産権セミナーがジャカルタで開催されました。ASEAN 事務局・アジア刑政財団（ACPF）・JICA の共催で、ERIA、WIPO、JETRO、日本弁護士連合会、弁護士知財ネット、法務省及び特許庁が協力、JAIF が支援したものです。

このセミナーには、ASEAN 各国と東ティモールの知的財産権を専門とする裁判官・弁護士や行政官が参加して、ASEAN 地域での商標権侵害訴訟や商標権行使の問題点について、日本の知的財産権の専門家と議論を行いました。セミナー開会式では、ナラリャ ASEAN 事務次長（官房担当）とともに、私も開会挨拶を行いました。

ASEAN 地域での知的財産権の保護は、日 ASEAN 双方のビジネスが今後一層発展していく上で重要な課題です。本年９月の日 ASEAN 特許庁長官会合（於ブルネイ）で採択された日 ASEAN 知財共同声明 2024 と日 ASEAN 知財アクションプラン 2024-2025、昨年７月の日 ASEAN 特別法務大臣会合（於東京）で採択された共同声明と日ＡＳＥＡＮ法務・司法ワークプランでも、本分野での協力の推進を確認しています。

日インドネシア・ファストトラック・ピッチ
（2024 年 12 月５日、於ジャカルタ、JETRO 提供）

**●ファストトラック・ピッチ**

12 月５日、日インドネシア・ファストトラック・ピッチのファイナリストによるピッチと表彰式が開催されました。日 ASEAN 双方の企業の協業によるオープンイノベーション・共創を促進するため、日 ASEAN の主要企業が課題（チャレンジ）を提示し、日 ASEAN をはじめ全世界の企業から提案を募るものです。昨年に続き、本年もシンガポール、ベトナム、インドネシア、タイで順次開催されています。

今回、主要企業６社（チャレンジオーナー）からの課題に対して、17 のファイナリスト・スタートアップからピッチが行われました。開会式では、武藤容治経産大臣のビデオメッセージに続き、エディ・プリオ・パンブディ尼経済調整省次官、ヨハネス・ルキマン尼商工会議所（KADIN）アジア太平洋委員長、石川浩 JETRO シンガポール事務所産業調査員と私から挨拶を行いました。

表彰式の後、ERIA の E-DISC でネットワーキング・レセプションが開催されました。私も参加して挨拶し、日インドネシアをはじめ多数の主要企業やスタートアップの代表からお話を伺いました。今回も、具体的な協業が多数進展したとのことです。このような取組が、日本や ASEAN のみならずインド太平洋地域や世界の社会課題の解決に貢献するよう願っています。

東南アジア・Quad 対話（2024 年 12 月 11 日、於ジャカルタ市内）

**●東南アジア・Quad 対話**

12 月 10 日～11 日、「東南アジア・Quad 対話―インド太平洋における ASEAN と Quad：意見の交換、立場の確認、協力の探求」がジャカルタで開催されました。インドネシアのシンクタンク FPCI が主催し、日米豪印 ASEAN 代表部が協力しました。

この対話は、東南アジアと Quad（日米豪印）から政府関係者や研究者が参加する 1.5 トラック会合で、相互理解を深めるとともに、協力の機会を探求することを目的としたものです。

私は初日の夕食会の歓迎挨拶で、第一に Quad と ASEAN がビジョンを共有していること、第二に Quad はそのビジョンを実現するための解決策・公共財を提供していること、第三に Quad と ASEAN の協力の潜在性は極めて大きいことを強調しました。

今回の対話は来年の ASEAN 議長国マレーシアでも報道されました。この対話を契機に、今後協力が着実に進展していくことを期待しています。

岩屋外務大臣とカオ・キムホン ASEAN 事務総長との会談
（2024 年 12 月 18 日、於外務省）

**●カオ・キムホン ASEAN 事務総長の訪日**

12 月 18 日～20 日、カオ・キムホン ASEAN 事務総長が、京都で日 ASEAN ヤングビジネスリーダーズサミット／Future Gereneration ビジネスリーダーズサミット、東京で日 ASEAN 経済共創フォーラムに出席するために訪日しました。

この機会に、外務大臣、防衛大臣、環境大臣、法務大臣、農水政務官、経産審議官、国際交流基金理事長、経団連会長との会談、京都大学での講演、駐日 ASEAN 各国大使・日 ASEAN センター・国際民商事法センターとの会合、そしてメディア取材が実現し、盛りだくさんで密度が濃い日程となりました。

一連の行事の多くに同席して、幅広い分野での日 ASEAN 協力とその成果・実利が、まさに日本の強みであると実感しました。特に、デジタル・AI や脱炭素など最先端の分野での ASEAN の日本への期待は大きいものがあります。日 ASEAN 友好協力 50 周年のモメンタムを維持・強化する上で、ASEAN 事務総長訪日の機会に、様々な関係者と具体的協力の方向性やアイディアを議論することは大変有意義と感じました。来年は大阪・関西万博が開催されます。次の事務総長訪日が早期に実現し、協力がさらに進展するよう願っています。

日 ASEAN ヤング・未来世代ビジネス・サミット昼食会
（2024 年 12 月 19 日、於京都・二条城、ASEAN 事務局提供）

**●継続と変革**

以上ご紹介した今月の行事を含め、ASEAN 特別首脳会議が開催されてからの一年間を振り返って、日本と ASEAN にとって重要なことは、相互信頼関係を強化する取組を継続するとともに、双方が学び合い共創する中で自らを変革していくことと感じています。

50 周年を経て、今や日本と ASEAN は「真に対等なパートナー」へと大きく変わっています。今後もこれまでに培った多層的な交流と協力を「継続」するとともに、今や世界の成長センターとなった ASEAN の活力や多様性を日本が真剣に学び、日本の強みとしていくことが重要です。日本と ASEAN が相互に学び、自らを「変革」することで、地域のみならず世界の平和と繁栄に貢献できると考えます。

来年が、「継続と変革」を通じて日本と ASEAN の「信頼と共創」のビジョンをさらに推進する年となるよう、幅広い関係者の皆様と一緒に具体的な取組を進めていきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦